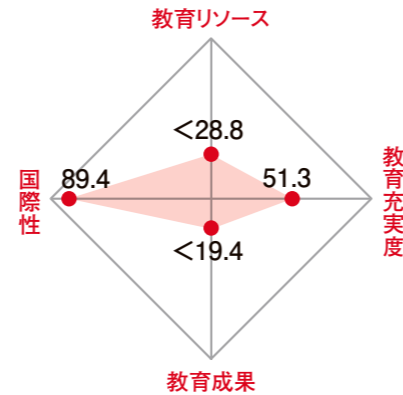




学生数/654人 学部/国際・英語
大学院/21世紀国際共生
●THE世界大学ランキング日本版2019/141-150位

THE世界大学ランキング日本版2020の結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	38.3-44.8	151-200位	外国人学生比率/11.3%
教育リソース	<28.8	-	日本人学生の留学比率/9.8%
教育充実度	51.3	151-200位	外国語で行われている講座の比率/30.1%
教育成果	<19.4	-	海外の大学との大学間交流協定数/14校
国際性	89.4	4位	



世界のトピックを英語で学ぶPBL

カリキュラムの特徴は「Content-based」(内容重視)かつ「Student-centered」(学生が主体的に学ぶ)のPBL。学生一人ひとりの英語習熟度に対応できる豊富なオリジナル教材をそろえている。



POINT 1

ひとつのテーマを、複数の授業と関連して学習。多角的な視点を養いながら、知識と理解を深める。

POINT 2

読む・聴く・話す・書く。英語「で」学ぶ授業で、4つのスキルを統合的に学び、実践レベルに引き上げる。

POINT 3

iPadに搭載された、オリジナルデジタル教科書を使用。情報収集や資料作成もスムーズにできる。

英語と教養の統合課程を
少人数のPBLで



学長 加藤映子

かとうえいこ ●大阪女学院大学国際・英語学部教授。Ed.D(教育学博士)。大阪女学院短期大学卒業。国際社会教育団体で活躍後、ボストン大学教育学部での留学を経て2003年ハーバード大学教育大学院博士課程修了。1998年～2001年フルブライト留学生。専門は言語習得、最新テクノロジーを活用する教育。

CASE STUDY

大阪女学院大学

英語“で”学ぶ教育課程で
実践力の高い国際人養成

前年に引き続き「国際性」分野の4位にランクインした大阪女学院大学。高スコアの背景にある教育の特徴、学内の国際性向上の取り組みについて聞いた。

本学は国際・英語学部の1学部、入学定員は150人の小さな大学です。2年連続で「国際性」が4位となり、前身のウエルミナ女学校から続く、英語“で”学ぶ教育に自信ができました。とはいえ、創立以来、同じ教育を踏襲してきたわけではありません。短大開学後15年を過ぎた80年代初頭に、21世紀に向けた英語教育とは何かを検討し、若手教員中心に教育改革を行いました。平和、人権、環境、文化など、学ぶべきトピックの英語教材を自主開発し、英語4技能を統合的に学ぶしくみを整えたのです。2004年に開学した本学の教育は、この英語で学ぶ教養教育がベースです。1、2年次は21世紀の課題を、3、4年次はめざ

す職業に直結する専門課程を英語で学ぶため、英語による授業は3割を占めます。英語“で”学ぶことにこだわるのは、世界に自分の思いを伝える、世界の人と関わることを教育の目的としているからです。そのため、授業は少人数のPBLが中心です。学生はiPadを駆使し、世界のトピックをリサーチ、ディスカッション、そして発表を行います。クラスは英語習熟度別に編成されており、自分に合ったペースで学べます。その結果、TOEICのスコアは3年半で平均210点伸び、留学した学生は難なく現地の専門教育に接続できるので、提携校からは好評です。航空業界や企業の海外部門などで活躍する卒業生が多いのも特徴でしょう。多くの課題に取り組むため、学生はiPadを使っていつでもどこでも勉強しています。正直、しんどい。そんなとき、頼りになるのはリーダーシップトレーニングを受けた有志の先輩「ビッグシスター」たち。学生は入学後から彼女らに励まされ、進級すると、今度は先輩の面倒を見るようになります。たとえ第1志望の入学者でなくても、徐々に学びへの意欲や能力が上がるような教育環境を提供できていると自負しています。

小規模だからこそ可能な
教育力を広めたい

国際性の高さのもう一つの特徴は、1割を占める留学生の存在です。留学生は日本人学生と同じクラスで学びます。教室では日本語が苦手な留学生と、外国文化に興味のある日本人学生が英語でコミュニケーションを取り、助け合いながら学ぶ様子が見られます。こうした環境が日本人学生の留学への動機付けにもなっています。ただし、留学生比率を過度に高めるつもりはありません。留学生が本学に留学する目的は、英語と日本語を身に付け、日本で就職すること。就職支援まで考えると、責任を持って受け入れられるのは入学定員の10%程度でしょう。本学の教育の本来は、「教育を施す」ではなく、「一人ひとりを育てる」ことであり、それは、少人数の大学だからできること。私自身、全学生向けの授業を受け持っています。全員とコミュニケーションをとり、卒業後もキャリアの相談に乗るような強い関係性を維持しています。今後は国際性4位を支える教育や学修成果を可視化して広め、高校生に「選ばれる大学」をめざしていきます。

注目! ICTを積極的に活用し
学生の個別学修を支援

大阪女学院大学では、2012年度の新入生から全員がiPadを活用している。情報教育と英語教育の個別最適化の両方をめざしたものだ。短期大学での教育改革から30年にわたり、英語教育のオリジナル教材を作成してきた。平和、文化、人権、環境など多彩なテーマを扱う英語学習は、一般的なテキストでは対応が難しかったため。現在は、音声や動画などを取り入れたオリジナルデジタル教材をiPadに搭載して授業で活用している。また、オンラインの多読プログラムの導入により、学生は自分のレベルに合わせて読み、リーディング力を伸ばしている。教員は各自の達成度のログの取得がしやすくなった。今後は英語以外にも活用を広げる意向だ。



▲iPadを活用することで、情報収集や資料作成がスムーズに。英語とICTの運用力が同時に高められる

